日本ライフライン株式会社

2007年3月期中間決算説明会

2006年12月1日

... for patient comfort.

2007年3月期中間決算報告
2007年3月期通期業績予想

取締役管理本部長
政次　浩二

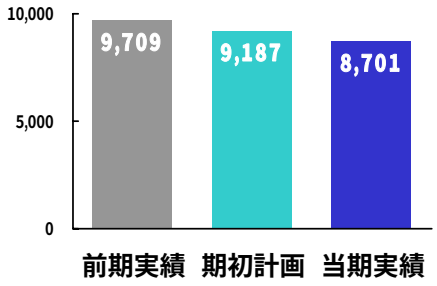
2006年12月1日

日本ライフライン株式会社

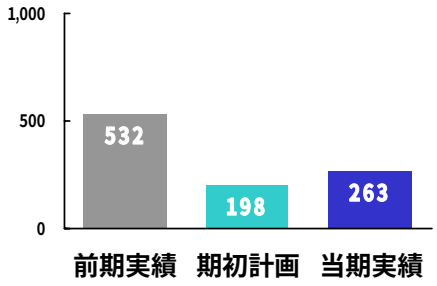
2007年3月中間期業績

(単位;百万円)	07/3中間実績	07/3中間期初計画	期初計画比 増減額	期初計画比 増減率	06/3中間実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	8,701	9,187	△486	△5.3%	9,709	△1,008	△10.4%
営業利益	263	198	64	32.6%	532	△269	△50.5%
経常利益	577	473	104	22.0%	782	△204	△26.2%
純利益	271	213	58	27.4%	430	△159	△36.9%

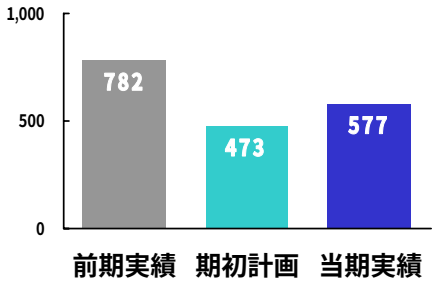
-中間売上高-



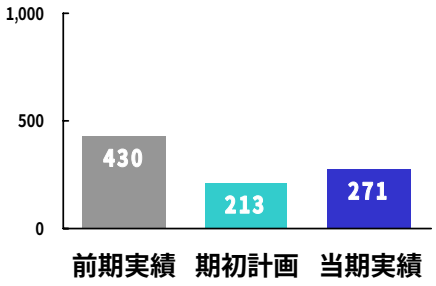
-中間営業利益-



-中間経常利益-



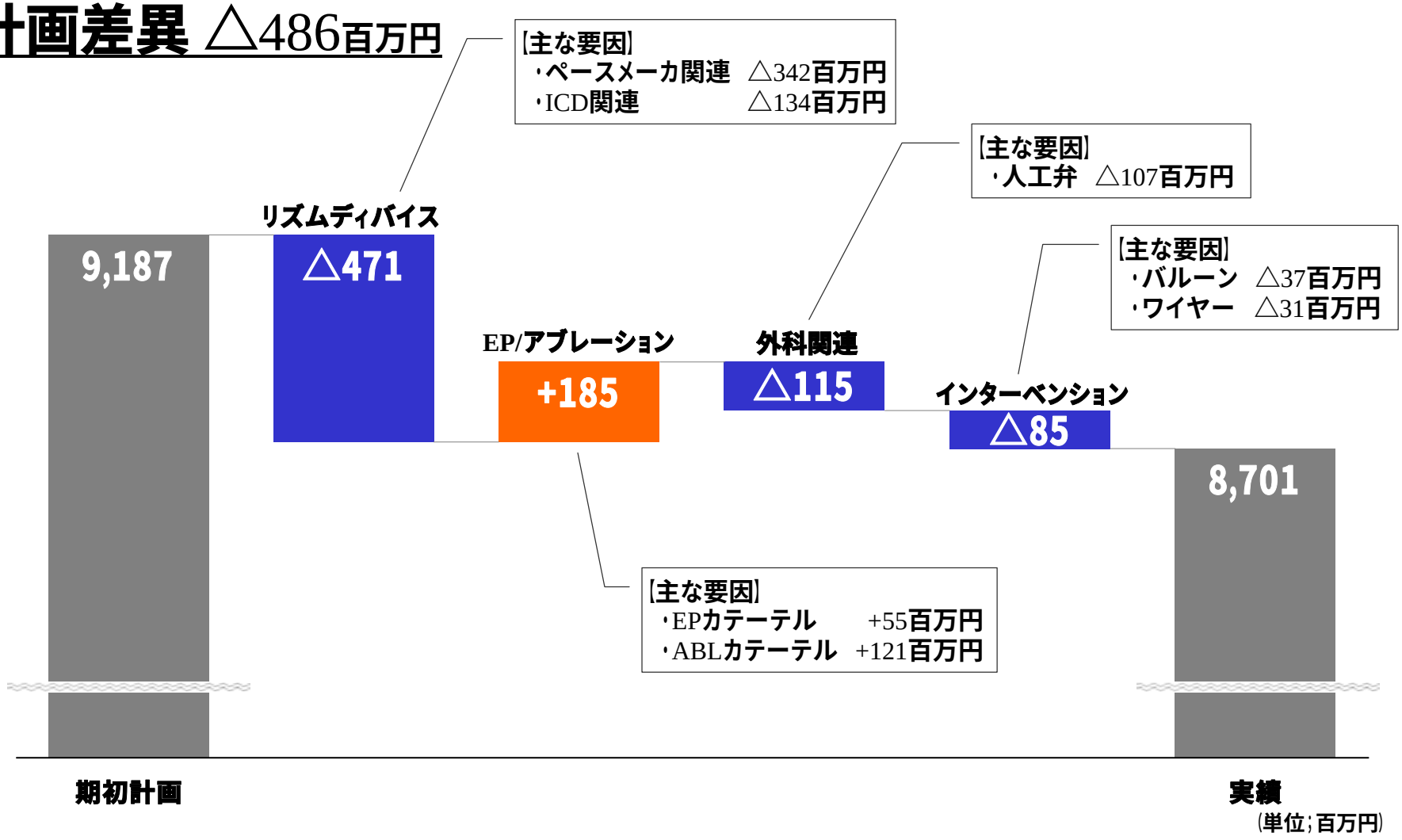
-中間純利益-



(単位:百万円)

計画差異要因－売上高

計画差異 △486百万円

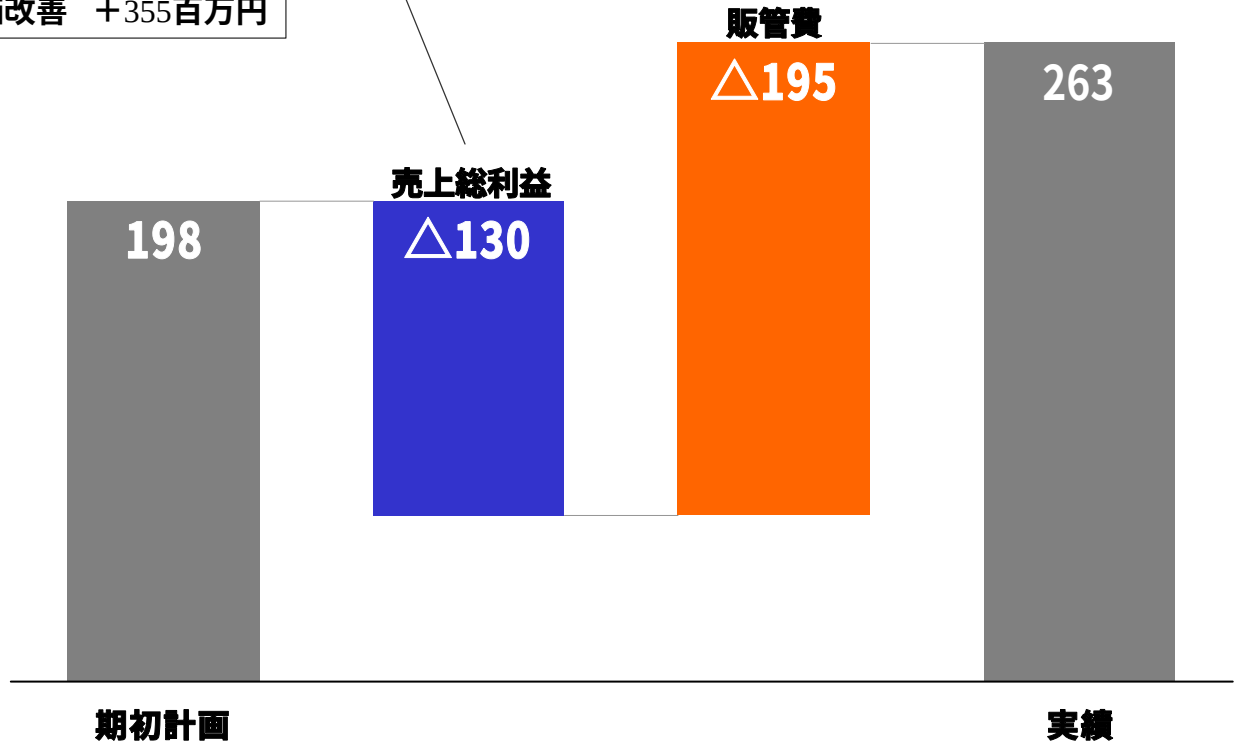


計画差異要因－営業利益

計画差異　+64百万円

【主な要因】
・広告宣伝費　△27百万円
・支払手数料　△20百万円
・販売手数料　△12百万円

【主な要因】
・売上未達　△486百万円
・原価改善　＋355百万円



(単位;百万円)

計画差異要因－経常利益、中間純利益

■経常利益

実　　績	577百万円
期初計画	473百万円
計画差異	+104百万円

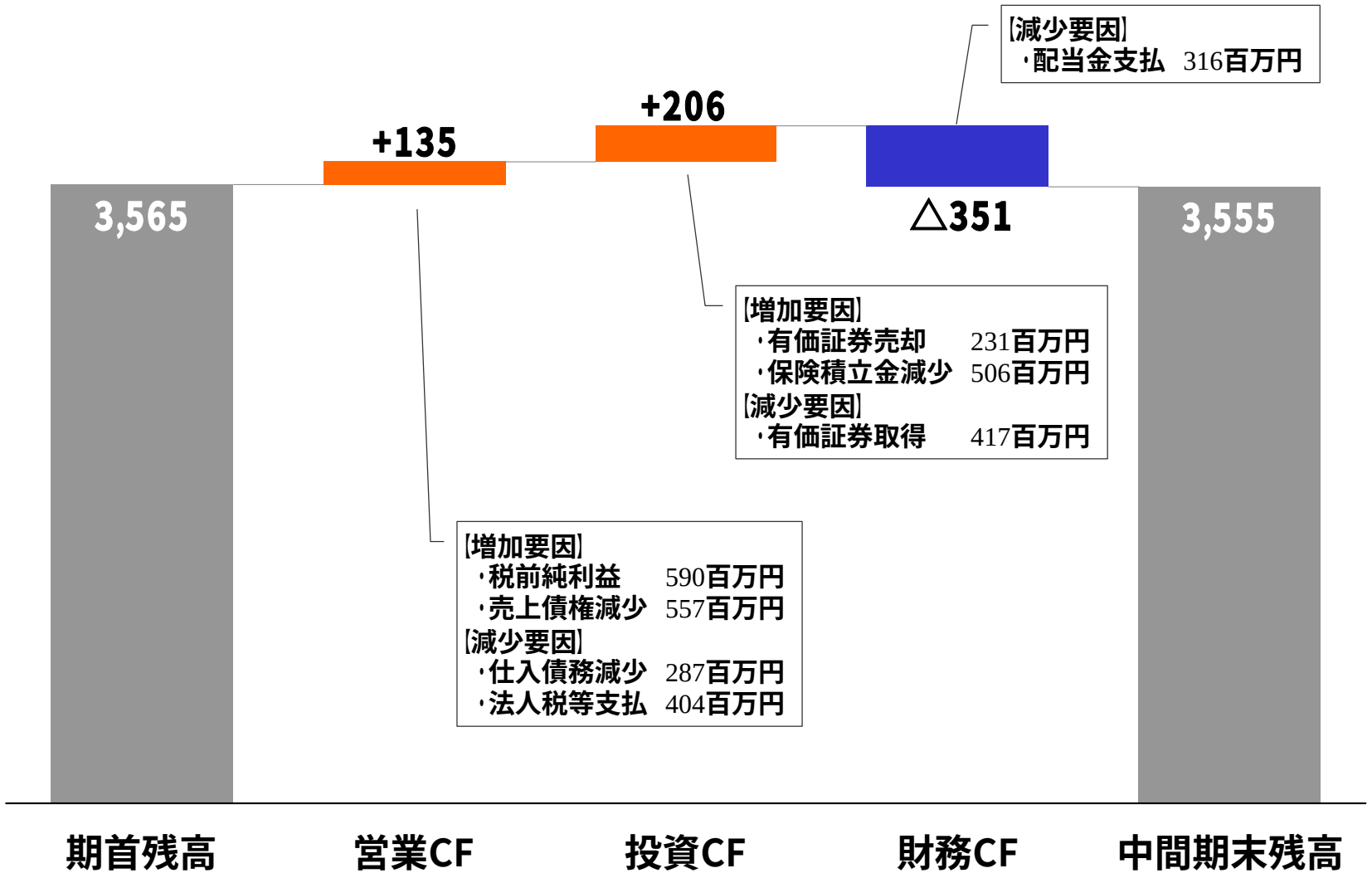
【主な要因】
・営業利益増　+64百万円
・営業外収益　+45百万円
＜主な営業外収益＞
－為替差益　46百万円
－受取保険金及び配当金　259百万円

■中間純利益

実　　績	271百万円
期初計画	213百万円
計画差異	+58百万円

【主な要因】
・経常利益増　+104百万円
・特別利益　+36百万円
＜主な特別利益＞
－投資有価証券売却益　30百万円
・特別損失　△23百万円
＜主な特別損失＞
－投資有価証券売却損　18百万円

2007年3月中間期実績ーキャッシュ・フロー

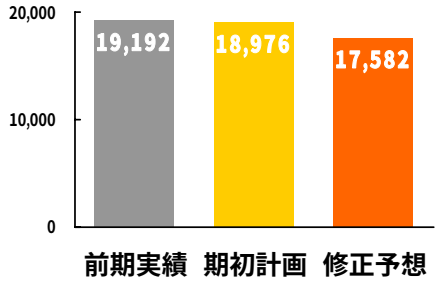


(単位;百万円)

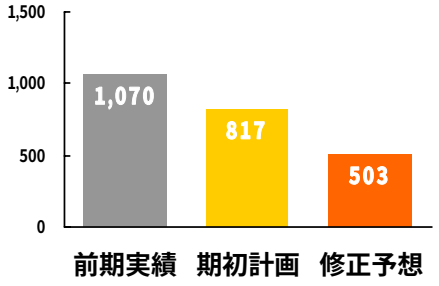
2007年3月期通期予想

(単位;百万円)	07/3通期 修正予想	07/3通期 期初計画	期初計画比 増減額	期初計画比 増減率	06/3通期 実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	17,582	18,976	△1,393	△7.3%	19,192	△1,610	△8.4%
営業利益	503	817	△314	△38.4%	1,070	△566	△52.9%
経常利益	885	1,159	△273	△23.6%	1,481	△595	△40.2%
当期純利益	388	545	△157	△28.9%	777	△389	△50.1%

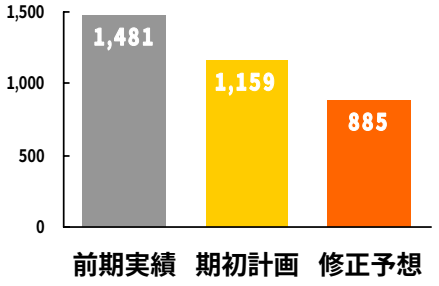
-売上高-



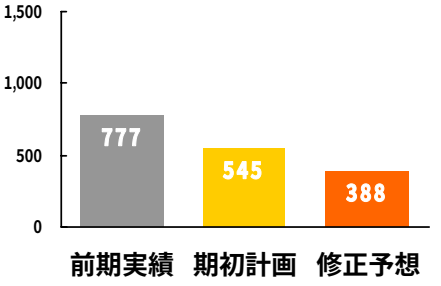
-営業利益-



-経常利益-



-当期純利益-

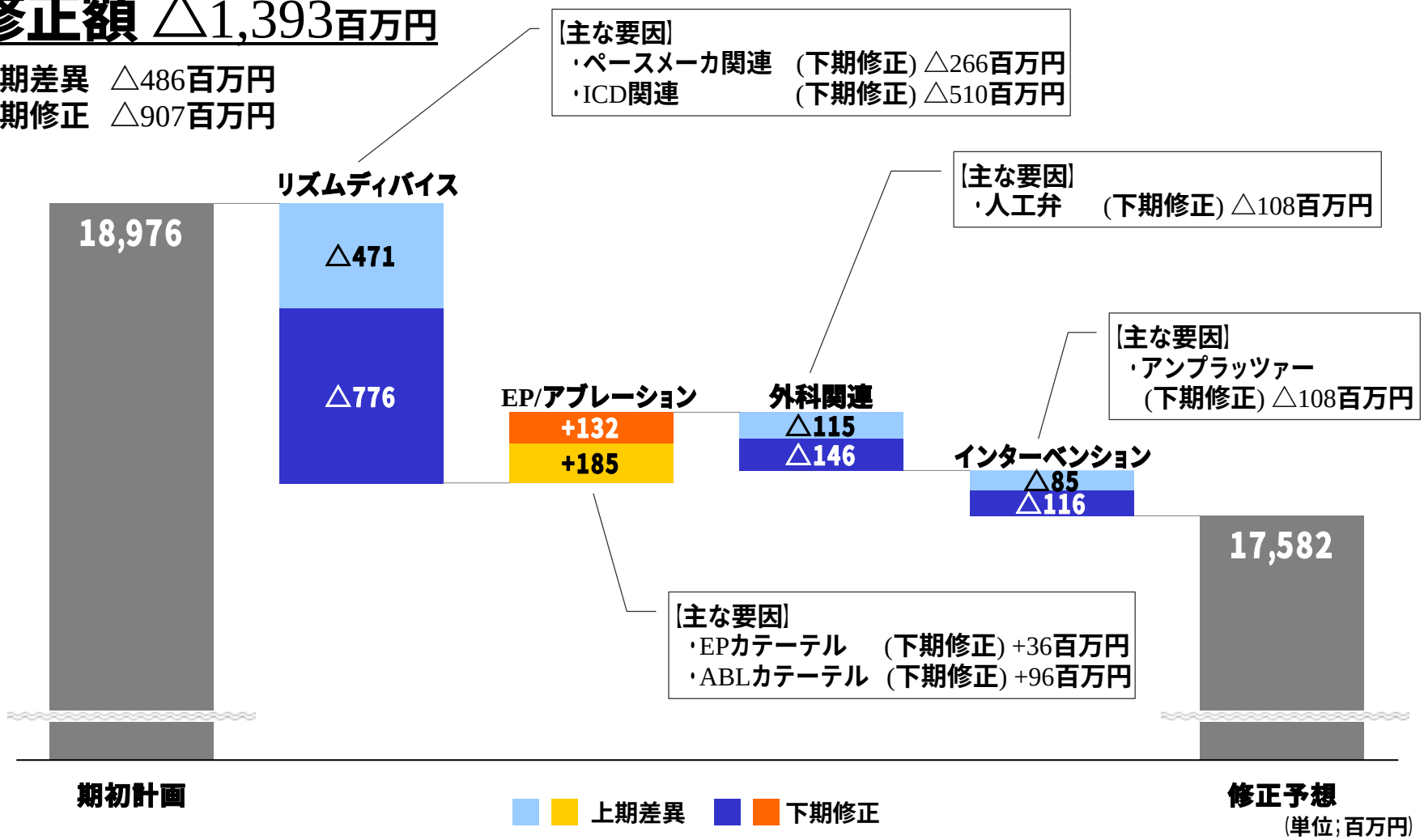


(単位:百万円)

通期予想修正要因－売上高

修正額 △1,393百万円

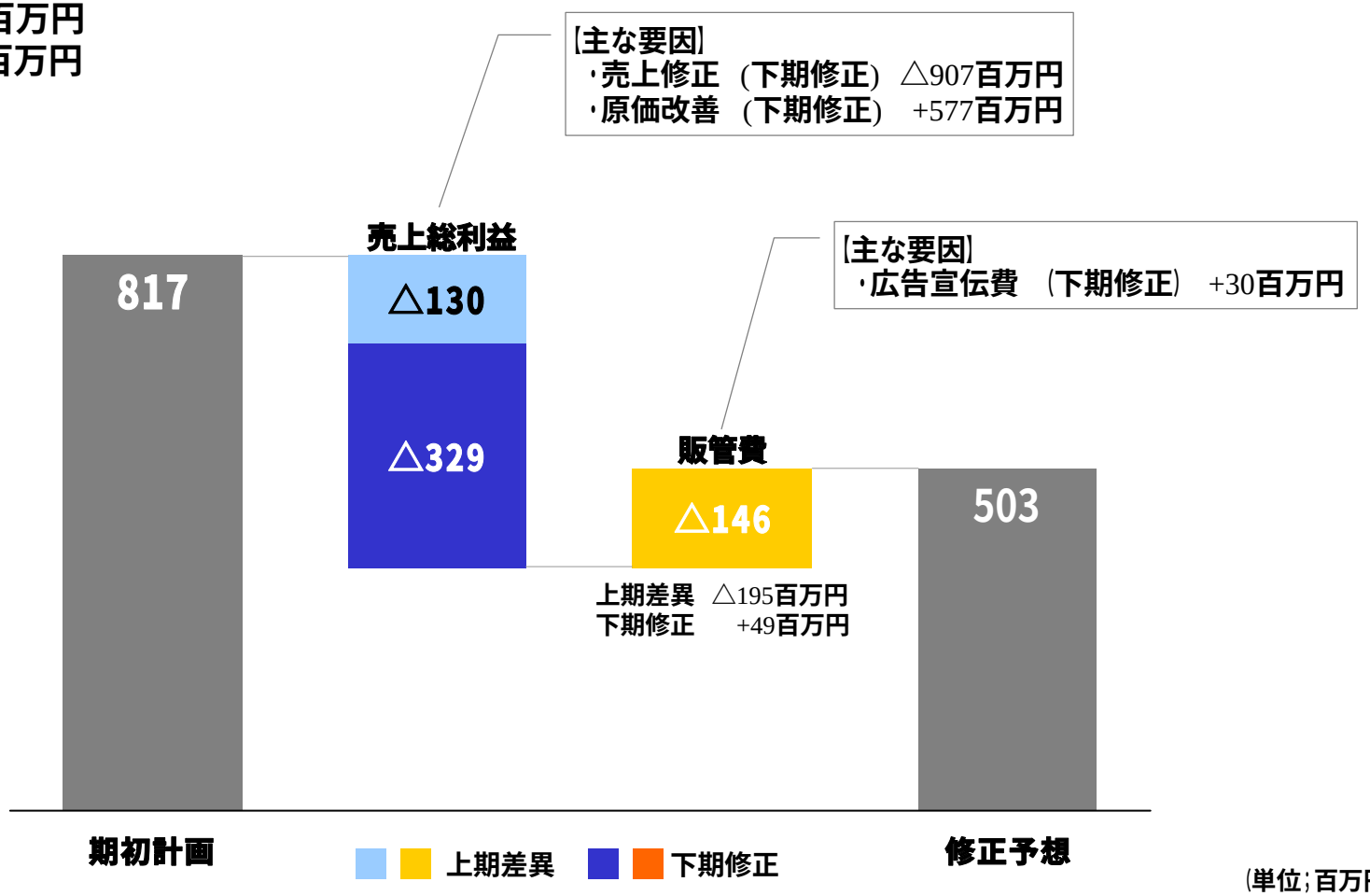
上期差異　△486百万円
下期修正　△907百万円



通期予想修正要因－営業利益

修正額　△314百万円

上期差異　　+64百万円
下期修正　△379百万円



(単位;百万円)

補足データ

(単位;百万円)	2006年3月期		2007年3月期	
	中間期	通期	中間期	通期(予)
設備投資額	171百万円	271百万円	59百万円	220百万円
減価償却費	92百万円	211百万円	69百万円	168百万円
研究開発費	117百万円	257百万円	89百万円	209百万円
為替(US$)	110.43円	113.17円	115.77円	120.0円
期末従業員数	364名	364名	369名	389名

(資料) 要約損益計算書

(単位:百万円)	中間期					通期				
	2007年3月期			2006年3月期		2007年3月期			2006年3月期	
	実　績	期初計画	期初計画比	実　績	実績比	修正予想	期初計画	期初計画比	実　績	実績比
売上高	8,701	9,187	△5.3%	9,709	△10.4%	17,582	18,976	△7.3%	19,192	△8.4%
売上原価	4,617	4,973	△7.2%	5,097	△9.4%	9,159	10,093	△9.2%	9,925	△7.7%
売上総利益	4,083	4,214	△3.1%	4,611	△11.5%	8,422	8,882	△5.2%	9,267	△9.1%
販管費	3,820	4,015	△4.9%	4,079	△6.3%	7,918	8,065	△1.8%	8,196	△3.4%
営業利益	263	198	32.6%	532	△50.5%	503	817	△38.4%	1,070	△52.9%
営業外収益	326	280	16.3%	259	25.6%	402	352	14.1%	454	△11.4%
営業外費用	12	5	109.8%	10	18.6%	21	11	80.9%	43	△51.8%
経常利益	577	473	22.0%	782	△26.2%	885	1,159	△23.6%	1,481	△40.2%
特別利益	36	ー	ー	100	△64.2%	36	ー	ー	120	△70.1%
特別損失	23	0	ー	2	745.8%	30	4	585.1%	13	120.4%
税前利益	590	473	24.7%	880	△33.0%	890	1,154	△22.9%	1,588	△43.9%
法人税等	318	260	22.6%	450	△29.2%	502	608	△17.5%	810	△38.0%
純利益	271	213	27.4%	430	△36.9%	388	545	△28.9%	777	△50.1%

(資料) セグメント別売上高

(単位;百万円)	中間期					通期				
	2007年3月期			2006年3月期		2007年3月期			2006年3月期	
	実　績	期初計画	期初計画比	実　績	実　績　比	修正予想	期初計画	期初計画比	実　績	実　績　比
ペースメーカ関連	3,859	4,201	△8.1%	4,708	△18.0%	7,811	8,420	△7.2%	9,162	△14.7%
ＩＣＤ関連	591	726	△18.5%	1,088	△45.6%	1,099	1,744	△37.0%	1,772	△38.0%
その他	24	18	30.5%	41	△40.0%	44	38	15.1%	73	△40.0%
リズムディバイス計	4,475	4,946	△9.5%	5,837	△23.3%	8,955	10,203	△12.2%	11,008	△18.6%
ＥＰカテーテル	535	479	11.5%	320	66.9%	1,029	938	9.7%	751	37.0%
ＡＢＬカテーテル	703	581	21.0%	550	27.6%	1,396	1,177	18.6%	1,199	16.4%
その他	36	27	29.2%	38	△6.1%	63	55	14.7%	83	△24.1%
ＥＰ／ＡＢＬ計	1,274	1,089	17.0%	909	40.1%	2,489	2,171	14.7%	2,035	22.3%
人工弁	538	646	△16.7%	611	△11.9%	1,067	1,283	△16.8%	1,208	△11.6%
人工肺関連	260	246	5.9%	219	18.8%	513	495	3.7%	480	6.9%
人工血管	1,245	1,267	△1.7%	1,200	3.7%	2,513	2,577	△2.5%	2,556	△1.7%
その他	0	0	△67.7%	7	△97.2%	0	1	△35.1%	8	△91.2%
外科関連計	2,045	2,160	△5.3%	2,038	0.3%	4,096	4,358	△6.0%	4,254	△3.7%
バルーン	586	624	△6.0%	645	△9.1%	1,260	1,297	△2.9%	1,307	△3.6%
ガイドワイヤー	216	247	△12.7%	249	△13.5%	471	503	△6.4%	502	△6.2%
アンプラッツァー	71	77	△7.2%	ー	ー	192	306	△37.1%	24	675.2%
その他	30	41	△26.2%	27	12.5%	116	135	△13.8%	59	95.2%
インターベンション計	905	990	△8.6%	922	△1.8%	2,040	2,243	△9.0%	1,894	7.7%
合　計	8,701	9,187	△5.3%	9,709	△10.4%	17,582	18,976	△7.3%	19,192	△8.4%

課題と展望

代表取締役社長
鈴木　啓介

2006年12月1日

日本ライフライン株式会社

下半期の課題

これまでの取り組みを着実に推進

◆既存マーケットの販売強化

－単価下落の影響を販売数量増でカバー

◆自社製造製品の拡充

－高利益率の確保･商品供給リスクの回避

◆ニューディバイスの投入

－価格競争の回避･新規取引先の開拓

→既存マーケットの販売強化には特に注力

既存マーケットの販売強化 (1)

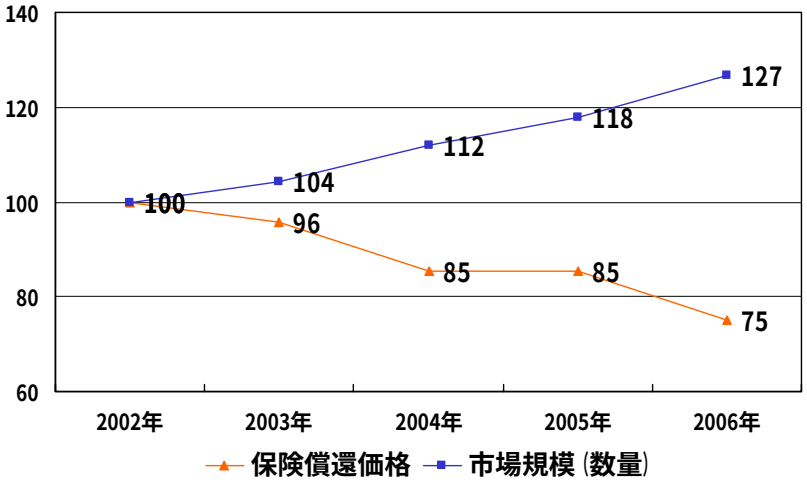
【心臓ペースメーカ】

◆保険償還価格は低下しているが、マーケットは拡大

◆商品の一部自主回収の影響を受ける

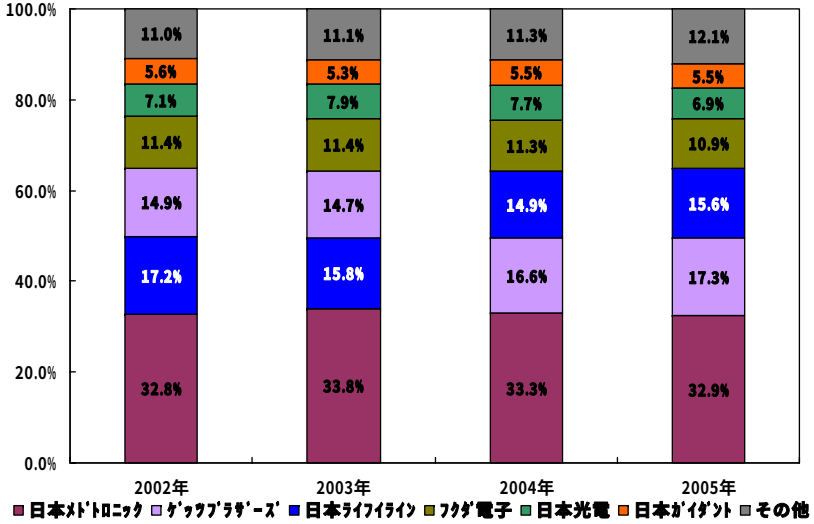
→信頼回復に努め、シェア回復に注力

－ペースメーカ市場動向 (2002年を100とした指数) －



・保険償還価格は各年4月の価格 (単純平均) を基準
・2006年市場規模は予測値

－ペースメーカ市場シェア (数量ベース) －



※マーケットデータは「アールアンドディ医療機器・用品年鑑2006」を基に作成
※集計期間は1～12月

既存マーケットの販売強化 (2)

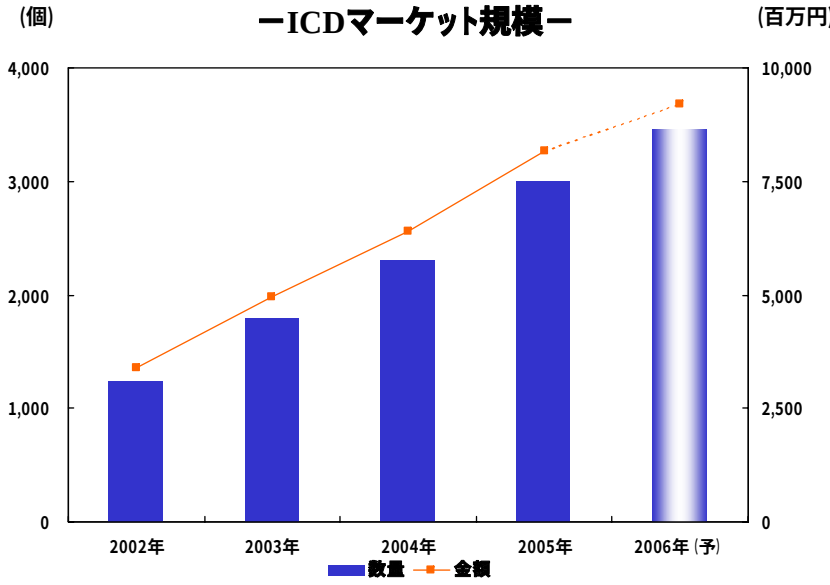
【ICD (植込み型除細動器)】

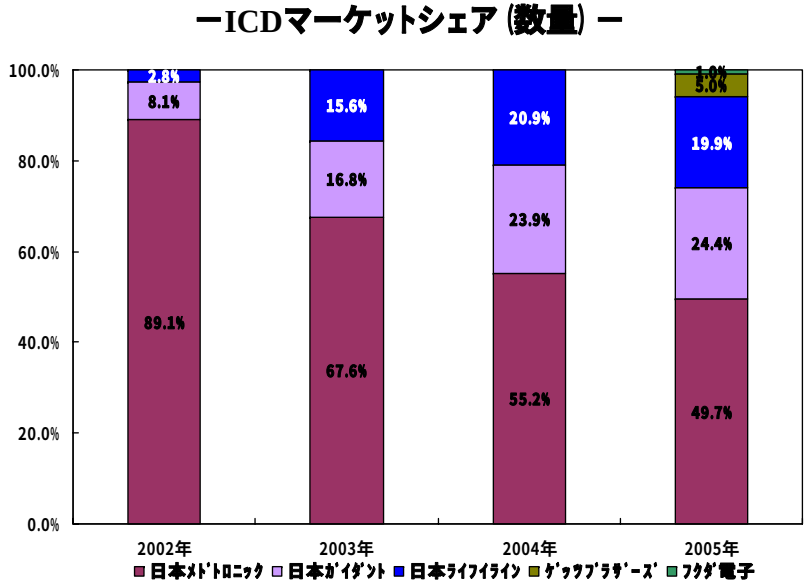
◆新規参入によりシェアダウン

◆商品の一部自主回収の影響も受ける

◆新商品の発売時期が流動的

→厳しい状況ではあるが現在のシェア堅持に努める





※マーケットデータは「アールアンドディ医療機器・用品年鑑2006」を基に作成

※集計期間は1～12月

既存マーケットの販売強化 (3)

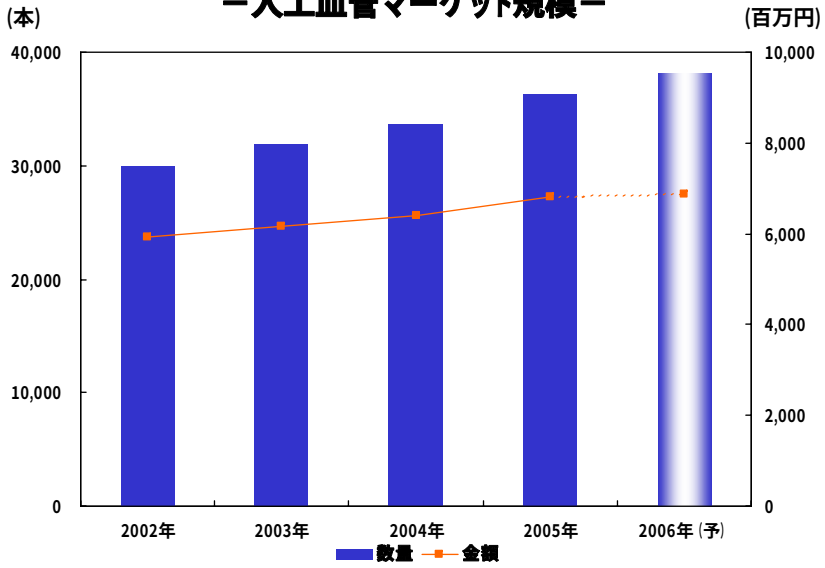
【人工血管】

◆マーケットは拡大しておりシェアも安定的に推移

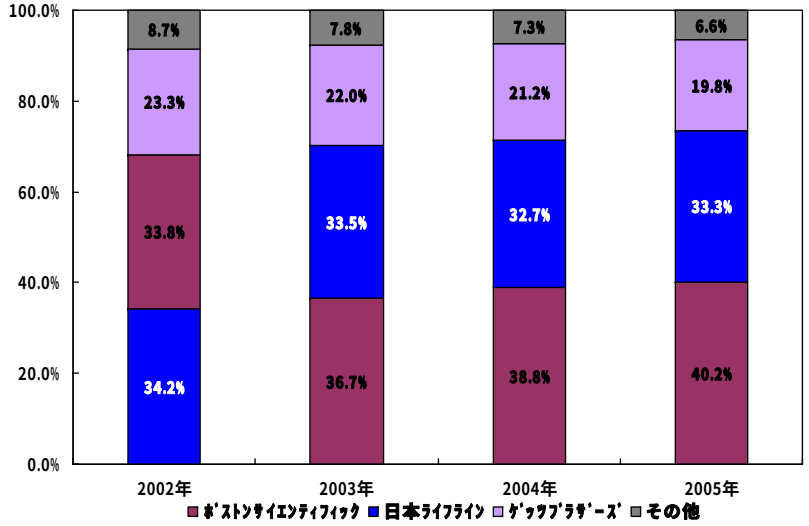
◆今期2度 (06年4月、07年1月) の保険償還価格の引き下げ

→オンリーワン商品や末梢用血管新商品 (下期発売) を梃子に売上拡大へ

－人工血管マーケット規模－



－人工血管 (ポリエステル) マーケットシェア (数量) －



※マーケットデータは「アールアンドディ医療機器・用品年鑑2006」を基に作成
※集計期間は1～12月

日本ライフライン株式会社

新商品ハイライト

【人工血管】

ePTFE血管　New「マキシフロー」



◆末梢用の人工血管

◆12月よりフルリリース予定

◆従来品より強度を向上、柔軟性も高まる

◆ ePTFEマーケットにおけるシェアアップに寄与

　ーePTFEマーケット規模　2,445百万円（2005年）

※ePTFE（延伸ポリテトラフルオロエチレン）

ポリエステルに比べ物質が付着しにくい性質があるため、小血管においても血栓による閉塞が発生しにくい。一方、復元力や弾力性に劣るため、縫合の際針穴が塞がりにくかったり、血管を曲げた場合つぶれてしまう等の問題点がある。

既存マーケットの販売強化 (4)

【バルーンカテーテル】

◆参入企業が多く競争環境が厳しい

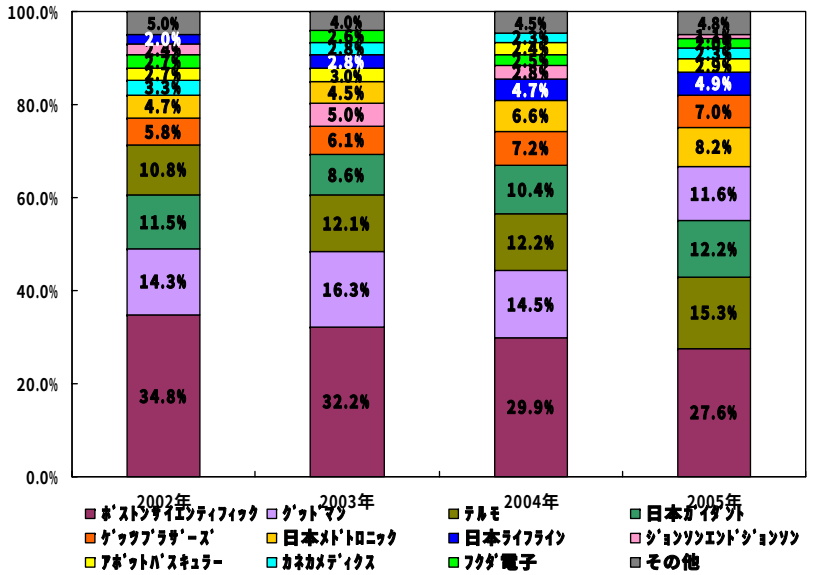
◆「オッティモ」シリーズ（カネカ社製）投入によりシェアアップ

→「オッティモ・ロッソ」（従来主力商品「オッティモ」の後継商品）の市場への着実な浸透を図る



OTTIMO ROSSO

－バルーンカテーテル市場シェア（数量ベース）－



※マーケットデータは「アールアンドディ医療機器・用品年鑑2006」を基に作成
※集計期間は1～12月

既存マーケットの販売強化 (5)

【インターベンション関連商品】

◆インターベンションマーケットの伸長

→商品ラインアップの充実により売上増を図ると同時に
既存商品とのシナジー効果を発揮

＜インターベンション関連新商品＞

・血栓異物除去用カテーテル 「フィルトラップ」(ニプロ製)

・マイクロカテーテル 「アクロバ」(カネカ製)
※マイクロカテーテル・・・ガイドワイヤーのサポートに使用

新商品ハイライト

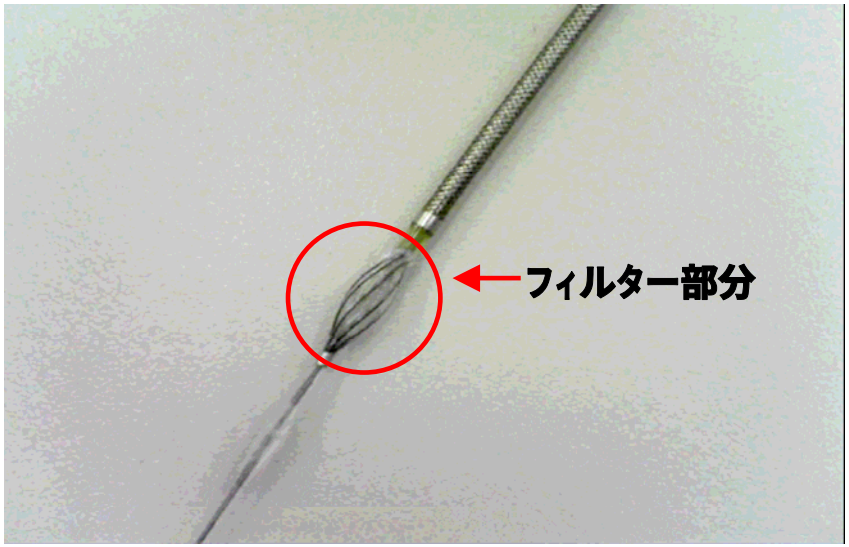
【インターベンション関連商品】

血栓異物除去用カテーテル「フィルトラップ」(ニプロ製)

◆血管内の浮遊血栓等の血管内異物を捕捉または除去

◆バスケットがフィルター型のため血流を確保

◆第4四半期より本格発売予定



自社製造製品の拡充 (1)

【概　況】

◆順調な売上推移 (07/3中間期　1,454百万円)

◆自社販路に加えOEM開始

【課　題】

◆製造コストのさらなる低減

◆販路の拡大

【自社製品品目】

◆EP (電気生理用) カテーテル

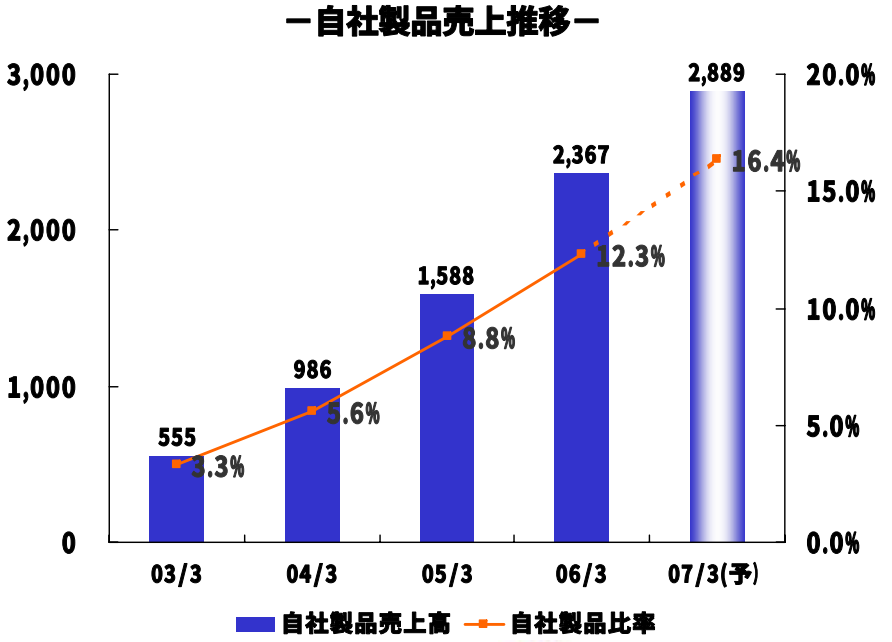
・・・不整脈の検査に使用

◆アブレーションカテーテル

・・・頻脈性不整脈の治療に使用

◆ガイドワイヤー

・・・心筋梗塞等の治療時に使用



自社製造製品の拡充 (2)

【EP (電気生理用) カテーテル】

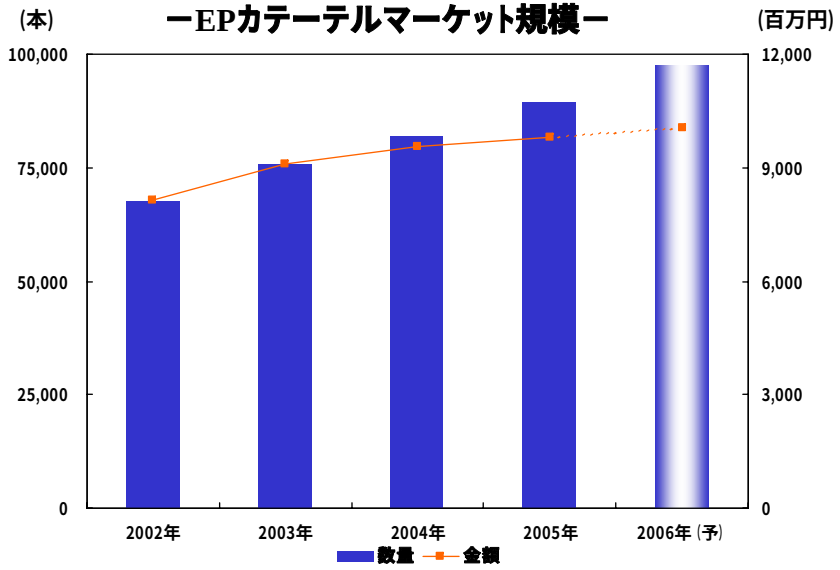
◆アブレーション治療に先立ってEPカテーテルを使用
　ーアブレーションカテーテルではトップシェアを獲得

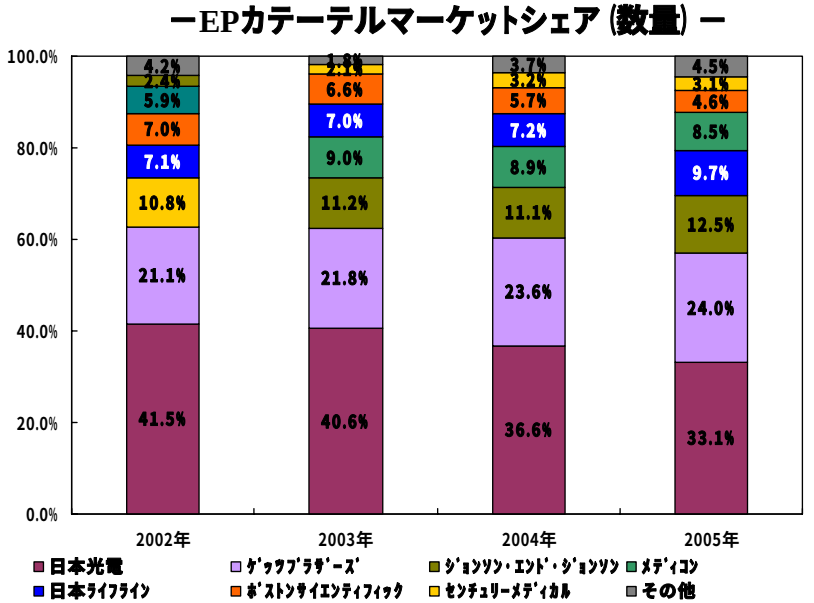
◆新製品「EPスター スネイク」発売 (本年8月)

→きめ細かい営業展開によりマーケットを深耕



EPstar Snake





※マーケットデータは「アールアンドディ医療機器用品年鑑2006」を基に作成
※集計期間は1～12月

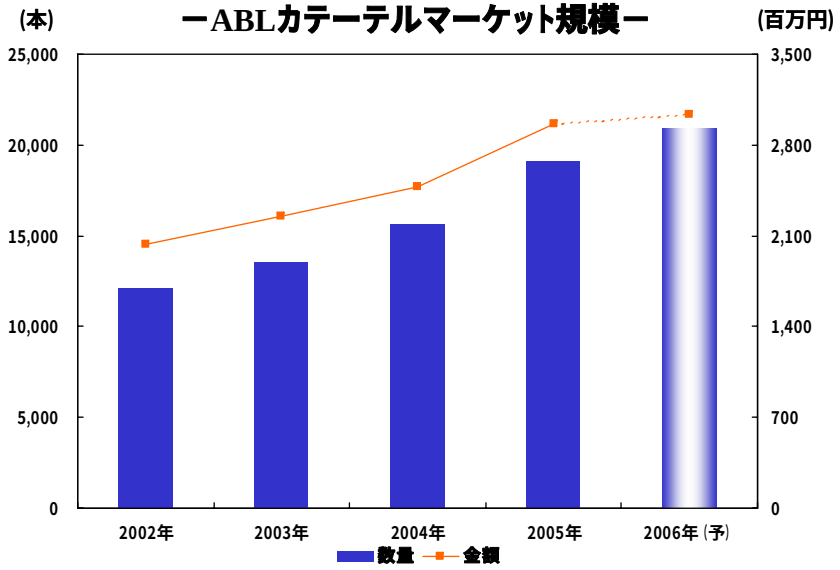
自社製造製品の拡充 (3)

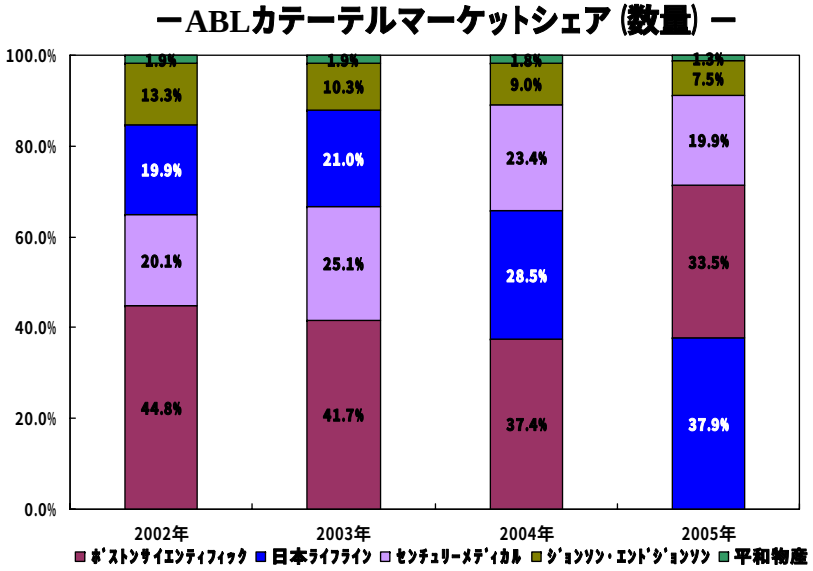
【アブレーションカテーテル】

◆心房細動治療への適応により症例数・施設数増加
　ー現在の約350施設から将来的に500施設程度まで増加見込み

◆現場ニーズを反映した製品開発により高評価を得る

→トップシェアを維持することで保険償還価格下落の影響を吸収し売上拡大へ





※マーケットデータは「アールアンドディ医療機器・用品年鑑2006」を基に作成
※集計期間は1～12月

自社製造製品の拡充 (4)

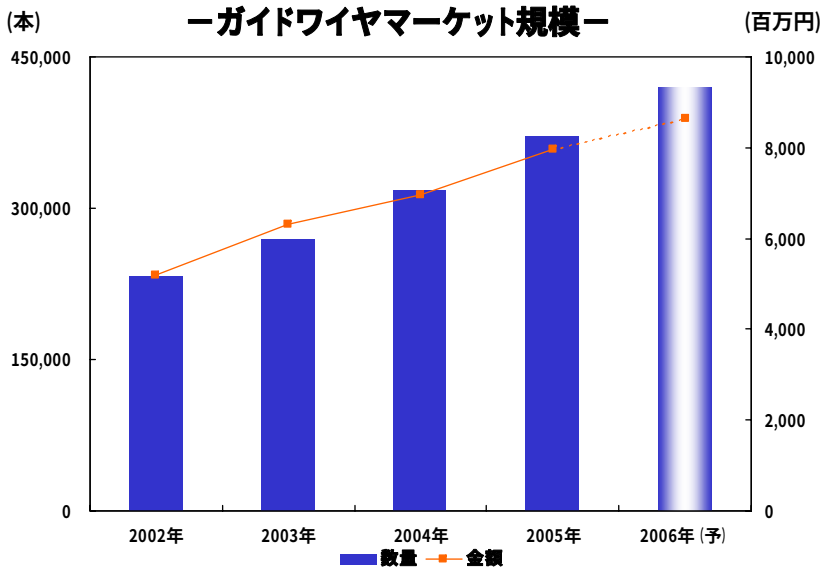
【ガイドワイヤー】

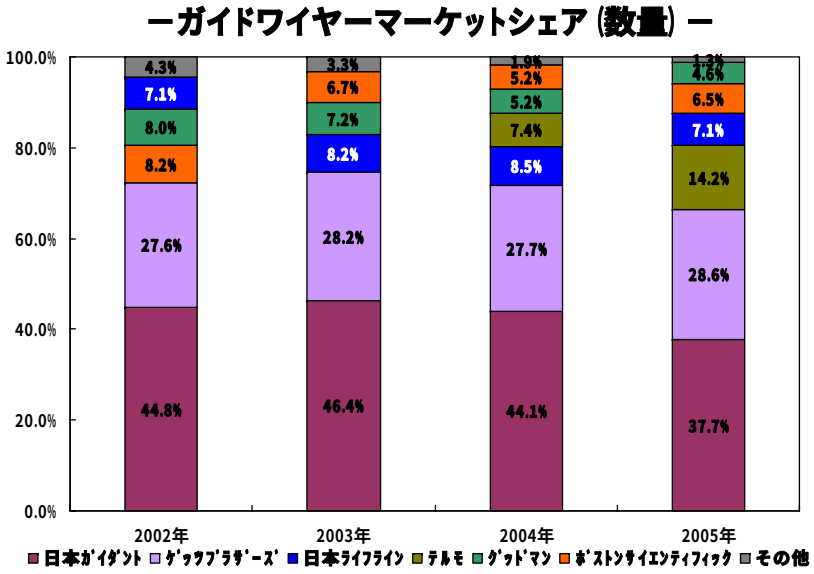
◆新製品投入の遅れからシェアダウン

◆新製品「アスリート イール」発売 (本年10月)

ー親水性ポリマーコーティングによりすべり性能向上

→新製品の迅速な市場導入を図りシェア回復へ





※マーケットデータは「アールアンドディ医療機器・用品年鑑2006」を基に作成
※集計期間は1～12月

ニューディバイスの投入 (1)

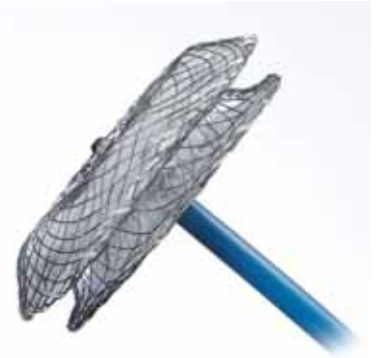
【心房中隔欠損閉鎖器具】
(商品名;アンプラッツァー・セプタルオクルーダー)

◆本年4月の保険適用により治療本格化

◆認定施設数が少ないため治療実績数はゆるやかに増加
　－当初3施設でスタートし今期は10施設まで増加予定

→認定施設数の増加に向けた取り組み

■アンプラッツァー・セプタルオクルーダー
先天的に心臓の左右の心房を隔てる壁に穴が開いている疾患(心房中隔欠損症)をカテーテルを用いて治療します。従来の治療方法である外科手術に比べ、患者様の身体的負担も小さく、大きな手術跡も残りません。
国内では当社のみが扱っている商品です。



ニューディバイスの投入（2）

【CRT-D（除細動機能付両心室ペースメーカ）】
（商品名；「コンタック・リニューアル4」）

◆2007年1月以降本格参入予定

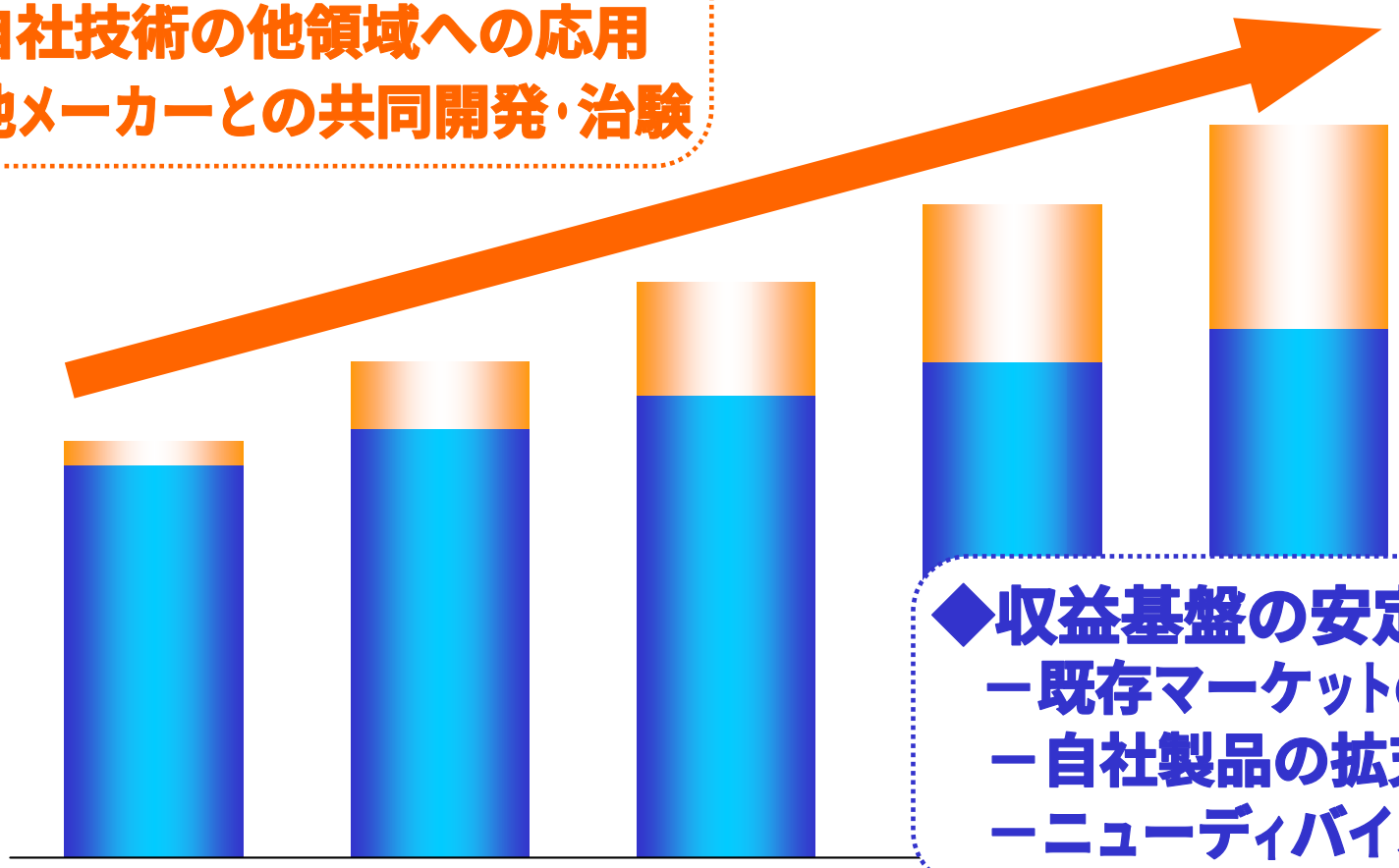
◆マーケット規模は約3,000台（2007年見込み）

◆保険償還価格　５５９万円（本体+リード）

■CRT-Dとは
心筋梗塞や拡張型心筋症等により心臓のポンプ機能が著しく低下し、薬物治療のみでは回復を図ることが困難な重症心不全の患者に対し、「心臓再同期療法」(CRT)という、心臓の左右両方の心室に電気刺激を与えることによりポンプ機能を改善させる治療を行うための機器です。CRT-Dは、両室ペーシング機能に加え除細動の機能を持っており、重症心不全患者における死因の約40～50%を占めると言われる、心室細動等の致死性不整脈による心臓突然死のリスクを軽減することができます。

成長ステージへ向けて

◆新たな成長ドライバー創出
自社の財産･強みの活用
→自社技術の他領域への応用
→他メーカーとの共同開発･治験



◆収益基盤の安定化
－既存マーケットの強化
－自社製品の拡充
－ニューディバイスの投入

(参 考) 会 社 概 要

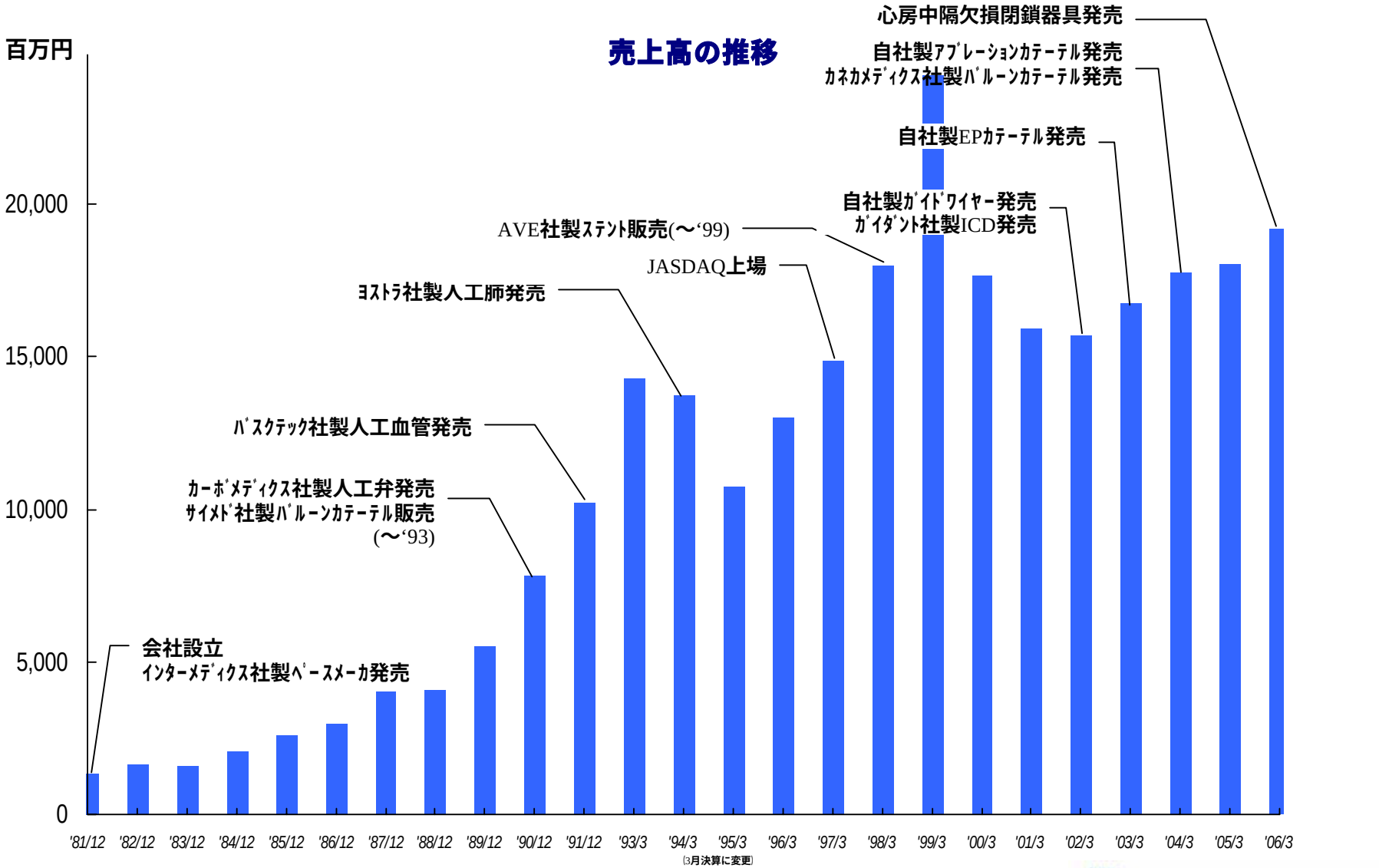
2006年12月1日

日本ライフライン株式会社

会社概要

【商　　号】日本ライフライン株式会社
【代 表 者】代表取締役社長　鈴木　啓介
【本　　社】東京都豊島区池袋2-38-1
【設　　立】1981年2月6日
【上　　場】1997年12月8日（JASDAQ）
【証券コード】7575
【事業内容】医療機器の輸入、製造および販売
【資 本 金】2,115百万円
【従業員数】369名（2006年9月30日現在）
【事 業 所】営業所（25）、出張所（2）、商品センター
　　リサーチセンター、浮間ファクトリー

沿革


売上高の推移
百万円
20,000
15,000
10,000
5,000
0
会社設立
ｲﾝﾀｰﾒﾃﾞｨｸｽ社製ﾍﾟｰｽﾒｰｶ発売
ｶｰﾎﾞﾒﾃﾞｨｸｽ社製人工弁発売
ｻｲﾒﾄﾞ社製ﾊﾞﾙｰﾝｶﾃｰﾃﾙ販売
(～'93)
ﾊﾞｽｸﾃｯｸ社製人工血管発売
ﾖｽﾄﾗ社製人工肺発売
JASDAQ上場
AVE社製ｽﾃﾝﾄ販売(～'99)
自社製ｶﾞｲﾄﾞﾜｲﾔｰ発売
ｶﾞｲﾀﾞﾝﾄ社製ICD発売
自社製EPｶﾃｰﾃﾙ発売
自社製ｱﾌﾞﾚｰｼｮﾝｶﾃｰﾃﾙ発売
ｶﾈｶﾒﾃﾞｨｸｽ社製ﾊﾞﾙｰﾝｶﾃｰﾃﾙ発売
心房中隔欠損閉鎖器具発売
'81/12
'82/12
'83/12
'84/12
'85/12
'86/12
'87/12
'88/12
'89/12
'90/12
'91/12
'93/3
'94/3
'95/3
'96/3
'97/3
'98/3
'99/3
'00/3
'01/3
'02/3
'03/3
'04/3
'05/3
'06/3
(3月決算に変更)

事業領域

当社は創業以来、不整脈や心筋梗塞等の心疾患を治療するための医療器具を扱っており、事業領域はリズムマネジメント、インターベンション、外科関連の3つに大別されます。

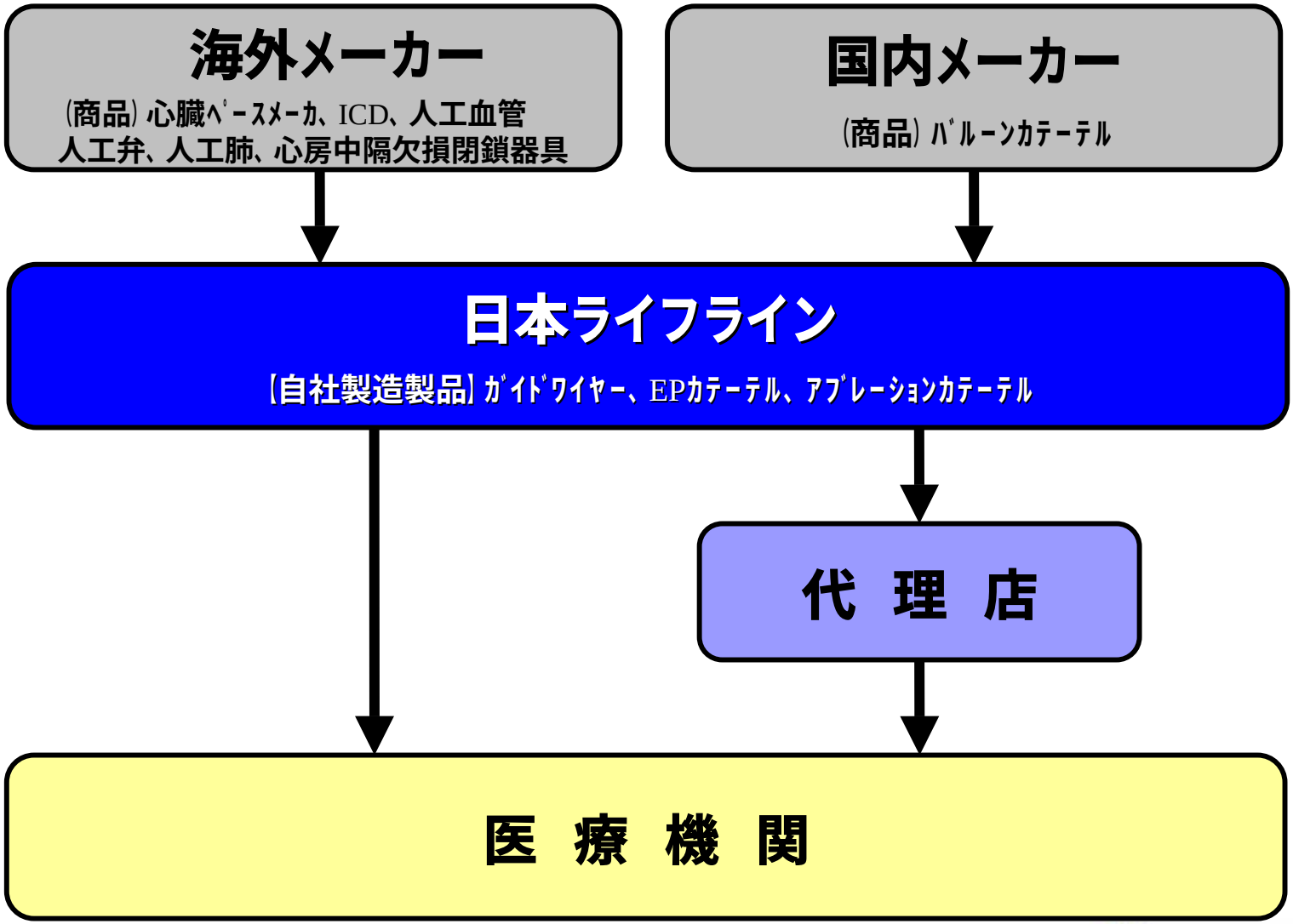


リズムマネジメント
不整脈（心臓の拍動が正常よりも遅くなるまたは早くなる状態）を検査、治療する器具を扱います。

インターベンション
細い管（カテーテル）を皮膚を通して血管に挿入し、心筋梗塞等の治療を行う器具を扱います。外科手術に比べ、患者さんへの負担が小さい治療法です。

外科関連
本来の機能が失われてしまった血管や、心臓の弁を、外科手術により人工の器官に置き換え、治療するための器具を扱います。

商品の流通経路


海外メーカー
(商品) 心臓ﾍﾟｰｽﾒｰｶ、ICD、人工血管
人工弁、人工肺、心房中隔欠損閉鎖器具
国内メーカー
(商品) ﾊﾞﾙｰﾝｶﾃｰﾃﾙ
日本ライフライン
【自社製造製品】ｶﾞｲﾄﾞﾜｲﾔｰ、EPｶﾃｰﾃﾙ、ｱﾌﾞﾚｰｼｮﾝｶﾃｰﾃﾙ
代 理 店
医 療 機 関

商品紹介ーリズムマネジメント



心臓の拍動が正常よりも遅くなる不整脈（徐脈）に対して、人工的に電気刺激を与えることで拍動を保ちます。

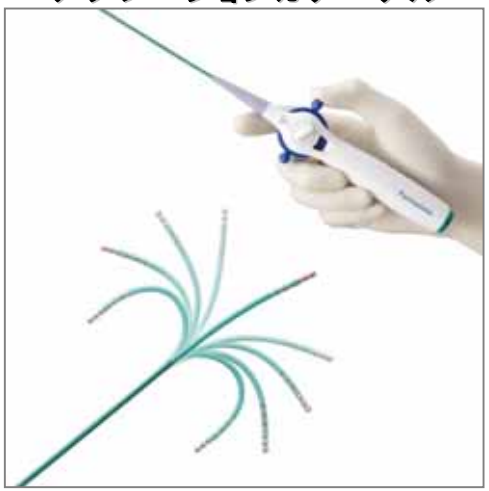
心臓ペースメーカ

心臓の拍動が異常に早まる不整脈（頻脈）のうち、致死性の不整脈である心室細動の発生を検知し、電気ショックを与えることで、拍動を正常な状態に戻します。



ICD（植込み型除細動器）

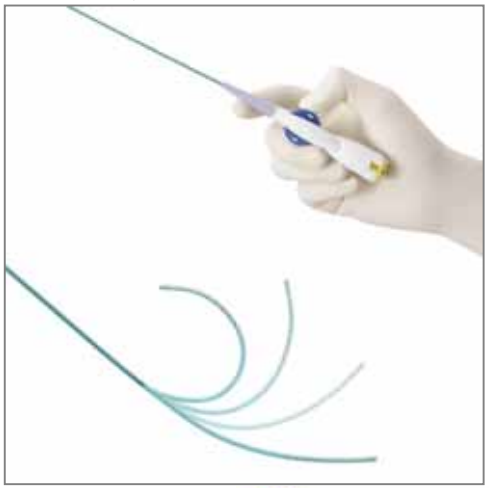
アブレーションカテーテル



頻脈の原因となる心臓内の異常な電気刺激の経路を、カテーテル先端部の電極から流す高周波電流により焼き切り治療します。

EP（電気生理用）カテーテル

不整脈の診断や治療方法の適応を判断するための検査に用いられます。カテーテル先端に電極がついており、心臓内の電位を測定したり、不整脈を誘発させることで原因を特定します。



商品紹介ーインターベンション



バルーンカテーテル

心臓の筋肉に酸素や栄養を送る血管（冠動脈）が詰まることが原因となる心筋梗塞や狭心症の治療に用いられます。血管の詰まった部分で風船（バルーン）を拡張させ、再度血流を確保します。

バルーンカテーテルを血管の詰まった部分に導くために用いられます。ガイドワイヤーを血管の詰まった部分の先まで通過させ、これに沿ってバルーンカテーテルを進めます。



ガイドワイヤー



心房中隔欠損閉鎖器具

先天的に心臓の左右の心房を隔てる壁に穴が開いている疾患（心房中隔欠損症）をカテーテルを用いて治療します。

従来の治療方法である外科手術に比べ、患者さんの身体的負担も小さく、大きな手術跡も残りません。

商品紹介ー外科関連



人工心臓弁

心臓内の血液の逆流を防ぎ、正しい流れを保つために機能している心臓弁が、十分に開かなくなったり、完全に閉じなくなった場合に、人工心臓弁に置き換え、本来の機能を回復させます。

動脈瘤（動脈の壁に瘤ができ、場合によっては破裂、出血する）などで痛んだ血管を切り取って人工血管に置き換えたり、バイパスとして使用します。



人工血管

人工弁付血管



人工心臓弁と人工血管が一体となっており、大動脈弁と弁につながる動脈を同時に交換する場合に用いられます。

人工肺



心臓の外科手術を行う場合、一時的に心臓を停止させ、人工心肺装置により血液を循環させますが、その際血液中の二酸化炭素を除去し、酸素を供給する肺の働きをします。

■ご注意事項

本資料の記載内容のうち、歴史的事実でない事項は、日本ライフラインの将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。特に、商品や製品に関し、治験に関する事項、薬事法の承認に係る事項、および発売時期につきましては、過去の経験や入手可能な情報から得られた当社の予測であります。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本資料記載の見通しと異なる可能性がありますので、これらの見通しに過度に依存されないようお願いいたします。

本資料に関するお問い合せ先

日本ライフライン株式会社
経営企画部　山田
電話　03-3590-1618
URL　http://www.jll.co.jp

... for patient comfort.